



吉川紀夫先生の御退任を惜しむ

吉川紀夫先生は2019（平成31）年3月31日に本学を定年退職された。先生は、2001（平成13）年に明星大学経済学部の教授に就任され、爾来18年間にわたって、大学院経済学研究科を含め日本経済論や金融論などの講義や修士論文指導を担当された。

先生は1948（昭和23）年に神奈川県茅ヶ崎市でお生まれになった。地元の県立湘南高校を卒業後、大学紛争に揺れる東京外国語大学英米語

学科に入学されたが、伊東光晴教授（現・京都大学名誉教授）の経済学講義に魅せられ1969（昭和44）年に同学を中退され一橋大学に入学。宮川公男教授の門下生となり、以後、今日に至るまで仕事を通じ宮川公男名誉教授にはお世話になっているとのことである。1973（昭和48）年、日本銀行に入行し、統計局（統計解析課・マクロ計量経済モデル担当）、考査局（総務課・金利調整審議会担当）、調査局（内国調査

課・国際収支貿易構造分析担当、外国調査課・マクロ米国経済分析担当)などで勤務された。1982(昭和57)～1984(昭和59)年に日本輸出入銀行のアラブ・アフリカ地区担当調査役として出向されたが、1984(昭和59)年に日本銀行に戻り、その後、調査統計局調査役、徳島事務所長などを務められた。1993(平成5)～1995(平成7)年に東証一部上場の大阪証券金融株式会社(現・日本証券金融株式会社)資金部長として再び出向され大量に発行された国債の市中消化へ向けた資金供給に尽力された。1995(平成7)年に日本銀行に戻り、日本銀行経営管理局参事補、日本銀行考査役、日本銀行人事局参事などを歴任された。考査役在任中の1998年には東洋経済新報社から『ビッグバン後の銀行経営—情報・組織論からの研究』を刊行された。

2001(平成13)年明星大学経済学部に移籍されてからは、日本経済論や金融論、経済統計に関する研究をされ、2003(平成15)年に『経済指標の表と裏を読む方法—日本経済の真実を実感する見方・考え方』、『生活経済学の考え方—実感のある経済学への模索』、2008(平成20)年に『経済指標解説法—経済を見る眼を養う』などの著作を刊行され、国内外の大学の論文での引用も多数見られる。また数多くの論文も執筆されており、最近では、「アベノミクスが見

落としていること」(2014年)、「戦後日本経済の変遷と安倍政権の施策」(2015年)、「この国の根底にある経済運営の実情とその将来」(2016年)、「組織論から見た北朝鮮問題」(2016年)などを発表された。その思想的な背景には、C.バーナードの組織論やA.センの経済哲学の影響が色濃くあるように見受けられる。この間、株式会社明星大学出版部の取締役も10年間にわたり務められている。また、学界、財界にも幅広い人脈を持たれ、常に「学際」や「リベラルアート」の重要性を強調されている。先生ご自身、人間社会や人間にとって真に有用となる経済学研究を目指しているとのことである。また日本金融学会会員、生活経済学会終身会員、一般財団法人統計研究会研究会員、NPO法人アジア近代化研究所理事なども務めてきた。

先生のお人柄は気さくで親切である。私が明星大学に就任した際の頃に、先生の研究室での打ち合わせや懇親会の席で、いろいろと心配していただき、アドバイスいただいたのを覚えている。この場を借りて感謝申し上げたい。

明星大学 経済学部・経済学研究科
教授 粕谷宗久